

日本一の力持ち追い60年

この記事は埼玉新聞2009・10月4日号から転載させていただきました。

越谷から出た江戸のスター

元中学校の社会科教師が休日や夏休みを使い60年間、ある男の足跡を追ってきた。今、元教師は「偉い男だ。彼のために使った私の人生は無駄でなかった」と語る。男は江戸時代に越谷から出た日本一の力持ち、三野宮卯之助——807（文化4）年—54（嘉永7）年—という。

越谷市平方の高崎力さん（83）は終戦のころ、埼玉師範学校（現埼玉大）の学生で、大宮（現さいたま市北区）の中島飛行機の工場でエンジン工程の係長だった。旧軍隊に志願し、入隊期日が1945年8月18日。3日前に終戦。「特殊兵器部隊へ配属だったが行かず助かった」。

学校を卒業して教師に。「みんな食うことで忙しい時代だった。私は戦争の反動で、休みには弁当を持って自転車でお寺や野の仏を訪ねた」。

○ 出会い

6年目の51年、当時の大袋村（現越谷市大袋）の村長、瀬尾哲太郎さんに「面白い浮世絵があるから」と、連れて行かれたのが三野宮の旧家だった。そのころ養蚕が盛んで、主婦が桑の葉を板に載せてとんとんと刻んでいた。

「それは何ですか」と瀬尾さんが板

話題 スポット

高崎力さん、三野宮卯之助を研究

を手にしてみると、卯之助の興行札（宣伝ビラ）を刷る版木だった。裏側に卯之助が舟を持ち上げている絵が彫られていた。



「卯之助は尊敬すべき郷土の大先輩」と高崎先生はそう語る。卯之助の力（力持ち）を研究し、越谷市三野宮の香取神社に

○ 足跡

「おれの代わりには卯之助を調べてくれ」と瀬尾さんが言う。それから高崎さんの卯之助を追う旅が始まった。各地の神社で卯之助が持ち上げた力石を探した。行ってみて、卯之助の石がなければ、「ここに来なかった」ということだ。20代のころは、中山道は碓氷峠まで、

【メモ】卯之助の最期には謎がある。高崎さんが昭和20年代に越谷の古老たちから聞き取った話では、卯之助は江戸の西国大名の屋敷で行われた東西力持ち対決で勝ち、宴席に出た後の帰路の路上で苦しみ死亡した。嘉永7年7月8日、48歳だった。死亡地、埋葬地は不明だ。三野宮の生家に残る位牌の戒名は「至殺清居士」。「思慮深いのになぜ勝ってしまったのか。それに戒名の文字は普通ではない。勝ったため毒殺されたのではないか」と高崎さんは言う。

東海道は三島辺りまで行ってみた。出ていない。「甲州が本命だ」。30代のころは甲州街道を調べた。山梨、名古屋、大阪、そして姫路まで。「郷土の先輩の卯之助がこんな所まで来ていたんだと感動した」。

○ 謙虚な人

行つて、石を見て分かったことがあつた。川崎大師で四つある力石の一番大きい石に卯之助の名があつた。「なごだ」。また若かつた高崎さんはがっかりした。

東海道の要所。良い人悪い人、いんな人がいる。そこに越谷の男が、一番の石を持ち上げたらどうなるか。拙元のメンツも卯之助は考えたのだと思う。思慮深く謙虚。ただの力持ちではない」。

○ 虚弱児

「生まれつき虚弱児で、人の見えないうちで体を鍛えた。15歳の時、三野宮の元荒川で、座礁した舟を水に漕ぎ持ち上げて助けたのが評判になった。それがきっかけで力持ちの道へ入つて、江戸のスターになった」。

高崎さんの調査では、卯之助の力石は関東南部中心に37個ある。最大の610キの石は桶川市の寿稻荷神社にある。越谷市の久伊豆神社では本殿に向かつて右手に丁寧に祭られている。生家近くの三野宮香取神社の石は半分土に埋もれている。大阪天満宮と姫路の魚吹（うすき）八幡神社の石は地域の宝物になっている。このわけ魚吹八幡では2006年12月に高さ33センチの石像が建立された。

越谷初めてのタイトル・ホルダー〈三ノ宮卯之助〉の誕生

文化4年(1807)	卯之助、岩槻藩領三野宮村(現越谷市三野宮)に生まれる。	→注意
文政8年(1825)正月	三野宮村の三橋卯之助(18才)は、同長宮村の肥田文八と共に久喜市太田袋の諏訪神社(現琴平神社)にて五十貫余の力石を差す。	
文政12年(1829)3月	卯之助(22才)が越谷市瓦曽根の最勝院にて江戸本郷小島久蔵と奉納力石70貫余を持つ。	
文政12年(1829)3月	卯之助(22才)が岩槻市飯塚の飯塚神社にて江戸本郷小島久蔵らと奉納力石を持つ(貫目不明)。	
文政13年(1830)3月	卯之助(23才)が岩槻市釣上の神明社にて江戸本郷小島久蔵らと雲龍石および指石三十七メ目を持つ。	
文政13年(1830)10月6日	卯之助(23才)が江戸下町(場所不明)にて江戸本郷小島久蔵と力石五十貫余を持つ。この力石は現在、千葉県木更津市中里の観蔵寺にある。	
天保2年(1831)4月	卯之助(24才)が越谷市越ヶ谷の久伊豆神社で奉納力石五十貫余を持つ。	→注意
天保2年(1831)4月	卯之助(24才)、大木戸仙太郎と横浜市綱島の諏訪神社にて「飯田石」「池谷石」「指石」を持つ。	
天保3年(1832)2月	卯之助(25才)が春日部市粕壁東の八幡神社にて力石百貫余、六拾貫余を持つ。	
天保4年(1833)6月	卯之助(26才)が御上覧力持を深川八幡宮にて開催、芝大木戸仙太郎、岩槻肥田文八ら四十五名競演す。	→注意
天保7年(1836)6月	卯之助(29才)が江戸力持番付で西方関脇となる。	→注意
天保9年(1838)4月	卯之助(31才)が信州諏訪大社下社秋宮にて力石七十貫を持つ。	→注意
天保11年(1840)2月	卯之助(34才)が大阪の天満宮にて「大盤石」を足指。	→注意
嘉永元年(1848)2月	この頃、三ノ宮卯之助(40代)の小舟に牛一頭を乗せた曲差しが評判となる。	
嘉永元年(1848)3月	卯之助(41才)が越谷市三野宮の香取神社で「大盤石」「三王石」「さし石」を持つ。	
嘉永元年(1848)3月	卯之助(41才)がさいたま市の大門神社で「大王石」を持つ。	→注意
嘉永元年(1848)6月12日	卯之助(41才)は、江戸力持番付で東方大関となる。	
嘉永2年(1849)	卯之助(42才)が越谷市三野宮の香取神社で「白龍石」を持つ。	→注意
嘉永2年(1849)	卯之助(42才)が山梨県甲府市太田町の稲積神社で百廿貫の力石を持つ。	→注意
嘉永5年(1852)2月	卯之助(45才)が埼玉県桶川市寿の稲荷神社で「大盤石」を足指し。	→注意
嘉永7年(1854)7月	卯之助(48才)死亡。死亡地、埋葬地とも不明。	→注意

三ノ宮卯之助が日本一と考えられる理由

- ①当時の力持ち番付の東大関(横綱なし)であった
- ②日本最重の力石(610kg・桶川市)を持ち上げた
- ③持ち上げたと確認される力石も最多
- ④活動範囲も関東から近畿(姫路市)に及び、最も広い



卯之助評判の得業芸
「牛馬小舟指し」

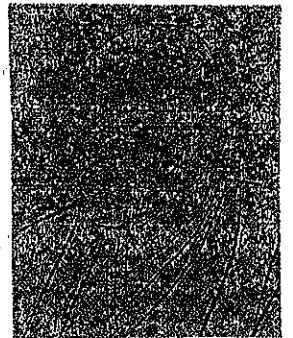
②「越谷初めてのタイトル・ホルダー〈三ノ宮卯之助〉の誕生」は「論説・三ノ宮卯之助の力石(2)」高島慎助・高崎力著(四日市大学論集第17巻1号2004年9月)の「表3.三ノ宮卯之助年譜」を改題し、掲載させていただきました。

三ノ宮卯之助と越谷関連の文化人・江戸時代の略史

- 天正 18 (1590) 家康・小田原攻めに参加 関東移封
- 慶長 5 (1600) 関ヶ原の戦い
- 慶長 9 (1604) 増林お茶屋御殿を御殿町に移転
- 慶安 2 (1649) 4代将軍・家綱・越谷御殿宿泊
- 承応 3 (1654) 利根川東遷完成
- 明暦 3 (1657) 明暦の大火 江戸城罹災のため、越谷御殿を江戸へ
- 明和 4 (1767) 曲亭馬琴 生まれる
- 安永 5 (1776) 平田篤胤 生まれる
- 天明 7 (1787) 越谷吾山（馬琴の俳句の師）逝去
- 寛政 5 (1793) 曲亭馬琴・お百（荻島出身）結婚
- 寛政 6 (1794) 東洲斎写楽 10カ月で約120点の全作を描き上げる
- 文化 4 (1807) 三ノ宮卯之助 生まれる
- 文化 13 (1816) 山崎長右衛門（油長）平田篤胤に入門
- 文政 1 (1818) 平田篤胤・お理勢（豆腐店娘）結婚
- 天保 5 (1834) 千疋屋（大島弁蔵）江戸に開店
- 天保 12 (1841) 平田篤胤・グレゴリウス暦・幕府忌避・秋田へ
- 天保 14 (1843) 平田篤胤・逝去
- 嘉永 1 (1848) 三ノ宮卯之助・東方大関 曲亭馬琴・逝去
- 嘉永 6 (1853) ペリー来航
- 嘉永 7 (1854) 三ノ宮卯之助・逝去
- 明治 1 (1847)



笠をかぶる前の家康像（部分） 浄山寺
・日原書斎員・田畑 功氏作



曲亭馬琴

三ノ宮卯之助の聖地は越谷市西北端の三野宮地区。県立大学の敷地も入っています。反対側の香取神社に卯之助力石（市・文化財）が4個。近くの向佐さん宅に縁故の1個。元荒川の三野宮橋を渡ると浄山寺（国・重文の地蔵尊・ご開帳は2・8月24日）。県立大まではせんげん台駅からバス。

卯之助さんの力石・こぼれ話

○高崎 ^{つとむ} 力先生の卯之助力石調査

- ①名古屋での調査のとき、名古屋城で、甲府から来ていた女子学生に出会い、甲府にも、力石に似た話があることを聞き、帰りに甲府に飛ばれました。
- 卯之助の力石が「受験と恋愛の神様」になっていたり、図書館のチラシのケースに相撲と力持ちの番付表があるのを発見したりで、感動で眼に涙。
- ②卯之助一行が大坂を訪れたときは、大塩平八郎^{おおしおへいはちろう}の乱後、三年経過していたが、天満の天神宮は荒廃したまま。その復興興行で、卯之助は準備された巨大な石を持ち上げて協力したのです。
- ③その興行を見ていた姫路・網干^{あほし せんだう}の船頭たちが卯之助一行を姫路へ招待しました。一行が、船便で網干に着いたとき、石などはまだ準備されておらず。卯之助は石の重さでなく、石を曲芸的に使って、観客を喜ばせました。

○行方不明の卯之助の力石

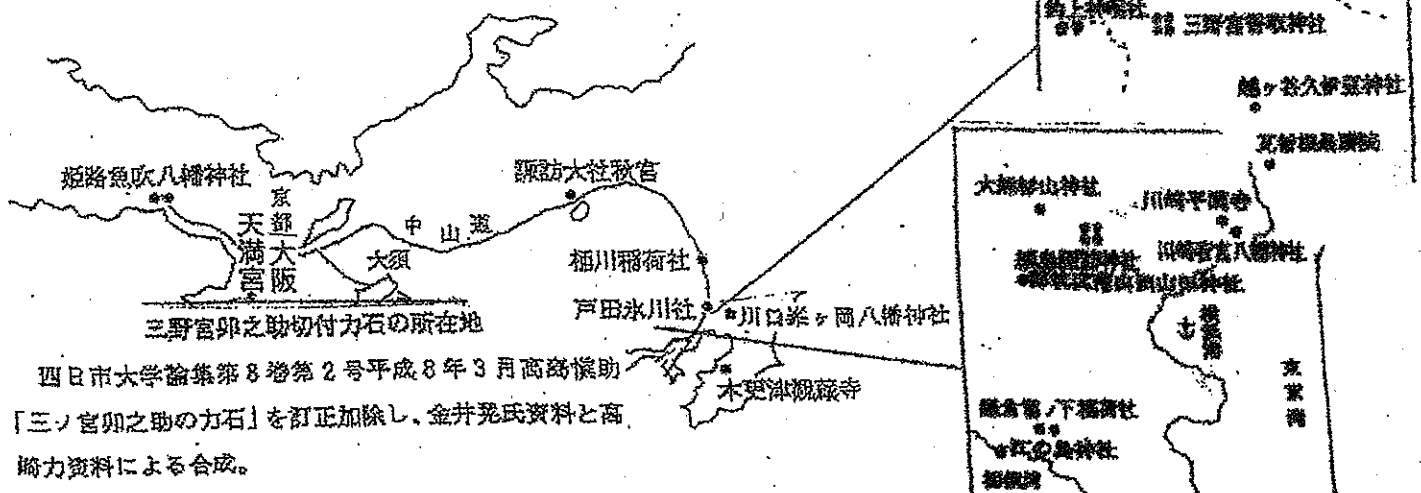
「三ノ宮卯之助・力石」のリストのうちの「鎌倉市雪の下・稲荷神社」の2個については、駐車場工事の際、行方不明となっています。越谷市の英雄・卯之助関連の江戸時代のものとも知らず、処分されてしまったようです。今後も、このような誤処理を防ぐための方策を考えておかねばなりません。地元の方々のご協力が必要となってきます。皆さまのお知恵お借りいたしたく、よろしく、お願いを申し上げる次第です。

高崎 力先生は、2016年に逝去されました。

(①～③については「日本一の力持ち 三ノ宮卯之助」高崎 力著・埼玉文化懇話会刊「埼玉・人と心」H22.3から引用)

卯之助の名前の入った力石は、ここにある！＜力持ちの中で最多＞

所在地	個数	備考
[1] 稲荷神社（埼玉県桶川市寿）	1	桶川市指定文化財
[2] 飯塚神社（埼玉県岩槻市飯塚）	1	
[3] 神明神社（埼玉県岩槻市釣上）	2	保存処置
[4] 香取稲荷神社（埼玉県岩槻市新方須賀）	1	
[5] 三野宮神社（埼玉県越谷市三野宮）	4	一個、所在不明
[6] 向佐宅（埼玉県越谷市三野宮）	1	
[7] 久伊豆神社（埼玉県越谷市越ヶ谷）	1	保存処置
[8] 観音堂（埼玉県越谷市瓦曾根）	1	所在不明
[9] 峯ヶ岡八幡神社（埼玉県川口市峯）	1	
[10] 氷川神社（埼玉県戸田市上戸田）	1	
[11] 八幡神社（埼玉県春日部市粕壁東）	2	保存処置
[12] 大門神社（埼玉県浦和市大門）	1	
[13] 琴平神社（埼玉県久喜市太田袋）	1	
[14] 観蔵寺（千葉県木更津市中里）	1	保存処置
[15] 北野神社（東京都江戸川区北小岩）	2	
[16] 川崎大師平間寺（神奈川県川崎市大師町）	1	保存処置
[17] 若宮八幡神社（神奈川県川崎市大師駅前）	1	保存処置
[18] 山田神社（神奈川県横浜市都筑区南山田）	1	保存処置
[19] 杉山神社（神奈川県横浜市都筑区大熊町）	1	
[20] 諏訪神社（神奈川県横浜市港北区綱島東）	4	保存処置
[21] 稲荷神社（神奈川県鎌倉市雪ノ下）	2	保存処置 ※
[22] 江の島神社（神奈川県藤沢市江の島）	1	
[23] 稲積神社（山梨県甲府市太田町）	1	保存処置
[24] 諏訪大社秋宮（長野県下諏訪町）	1	
[25] 大阪天満宮（大阪府北区天神橋）	1	
[26] 魚吹八幡神社（兵庫県姫路市網干区宮内）	2	
[27] 合力稲荷神社（台東区浅草）	1	
計	38個	



「卯之助の名前の入った力石は、ここにある！＜力持ちの中で最多＞」は「論説・三ノ宮卯之助の力石（2）」高島慎助・高崎力著（四日市大学論集第17巻1号2004年9月）の「表1.三ノ宮卯之助の力石」を改題し、掲載させていただきました。

天保4年（1833）、卯之助は江戸深川の富岡八幡宮とみおかはちまんぐうにおいて、11代將軍・徳川家斉いえなりの前で力持ちちからもちの技わざを見せたとされており、「御上覧力持番付ごじょうらんちからもちばんつき」と「御上覧力持」の引札（チラシ）が残っています。天保4年（1833）6月の文字も入っています。時の將軍サマに、卯之助さんが技をご覧いただいたのなら、越谷市民は大喜びなのですが、「いや、ご上覧があった証拠はない」などという意見が出てきて、ええッ？！

興行主が宣伝のために作った可能性があるものでは証拠にならない～とおっしゃる。たしかに、力自慢に先行する御上覧相撲については、7回も、江戸城内吹上ふきあげのお庭で行われたことが幕府の公式記録の「徳川実紀とくがわじつき」にあるのですが、力自慢の方の天保4年は「実紀」の該当期間が欠落し、見当たらないのです。

しかし、「御上覧」の実態を考えると、興行主が商売のために勝手に、「ご上覧」という文句を使うということはありません。

「御上覧」の幕府側の所管は「奉行所」。現在のお役所よりも怖そうな奉行所が「御上覧」でない興行に「御上覧」という広告をしたとき、気楽にお許しただけたものでしょうか。

逆に、当時、三人姉妹が馬上で「京鹿子娘道成寺きょうかのこむすめどうじょうじ」などを語り、踊ったりする見世物などでさえ、「御上覧の栄」に浴しています。將軍・家斉いえなり様の喜びそうなモノで御上覧が認められるのなら、日本一の力持ちが「栄」に浴することは十二分に考えられるのではないか～というのが結論になります。